

冬から春へ ～4年生理科・校庭、春の生き物探しから～ その2

先日の4年生の理科「校庭の春の生き物探し」では、ツバキやウメの他、植えこみの中の雑草に花を咲かせているものが多くみつけられました。その一方で、昆虫たちの多くは、まだ木の幹の割れ目にひっそりとかくれていたりと、卵のままもっと暖くなるのを待っているかのようにみえました。

1. 冬の忘れ物



冬、枯れ枝ばかりになった雑木林を歩くと、鮮やかな緑のマユや、枯葉に包まれたマユなどが目に付くことがあります。

- ①長さ3センチほどの、きれいな緑色のマユはウスタビガのマユ。春から夏にかけてマユを作りますが、その頃は緑の葉に囲まれていて、まず見つけることはできません。夏から秋に成虫のガとなって出て行き、マユだけが残されて枯れ枝の中に目立つようになるのです(写真左)。
- ②その倍近い大きさの、枯葉に包まれた黄色っぽいマユは、ヤママユガのマユ。これも冬のマユは空っぽです。”天蚕”とも呼ばれ、丈夫で美しい天然のシルクが取れることで知られます(写真中)。
- ③初夏に茶色の網目状のマユを作るのがクスサン。秋に羽化するので、冬のマユはやはり空っぽになります。その形から”スカシダワラ”と呼ばれることもあるそうです(写真右)。

2. 春を待つ



まだ少し冷たい風の中、以前紹介したヨコヅナサシガメ(写真右)やテントウムシ、アメリカシロヒトリなどが、木の割れ目などにひっそりとしていました。オオカマキリ(写真左)やチョウセンカマキリの卵のうちも、じっと本格的な春を待っています。アリやミツバチなどはもう、比較的活発に動き回っていましたね。

第34号”木肌”の答

あ)アオギリ、 い)サルスベリ、
う)サクラ、 え)クロマツ、
お)キンモクセイ、か)イチョウ、
き)クルミ、く)ハナミズキ、け)
スダジイ、こ)ウメ、さ)サワラ

第35号”木の形”の答

あ)メタセコイア、 い)スギ、
う)アカマツ、 え)イチョウ、
お)アキニレ、か)サルスベリ、
き)クスノキ、く)ケヤキ、
け)コブシ、 こ)センダン

私たちの中にも寒がりさんと平気な子がいるように、温度の感じ方も生き物それぞれ違うのですね。これから暖かくなるにつれて、いろいろな生き物たちが動き始めます。それらを観察するのが楽しみです。[理科支援員 宮内]